

#### 4 考 察

小型簡易生活雑排水処理装置の処理効率の設定をどの程度に置くかという問題はあるが、仮に、BODについて50%以上とするならば、3ケースを比較してみると、いずれのケースも6時間後には、初期濃度の50%以下に低下していることから、少なくとも6時間の滞留時間が必要であるという結果になる。

一方、これまでの知見では、生活雑排水水量の日変動パターンは、朝と夜にピークがあり、朝のピークが顕著で、7～10時の3時間で1日の全使用水量の20～25%を排水している。また、一般家庭（4～5人）は、1日当たり約1000 l 使用していることから、7～10時の毎分当たりの排水量は約1.4 l 程度となる。

これらのことから、生活雑排水の流入量を適当な方法で調整し、接触酸化槽における滞留時間を調節することにより、BODについては、ある程度効果のある処理が期待できるものと考えられる。

なお、窒素及びリンの除去については、まだ検討を要するようである。

## Ⅸ 学 会 等

### 1. 学合および研究会等における発表

年月日	演 題	発 表 者	学 会 等 名	場 所
60.10.29	八郎湖における汚濁負荷削減について	高田 照	第11回北海道・東北公害研究連絡会議	山形県
60.10.30	生活排水の汚濁負荷量調査(Ⅲ)	湯川 幸郎	"	"
60.10.30	道路近傍における浮遊粉じん等の実態について(3報)	高橋 浩	"	"
61. 3. 4	秋田市内の雨水成分調査結果	斎藤 学	秋田県環境保健業務研究発表会	秋田市
61. 3.13	八郎湖における汚濁負荷削減について	高田 照	第20回水質汚濁学会	東京都
61. 3.12	都市中小河川の汚濁に関する研究Ⅲ —底質中の油分とMBASの分布—	湯川 幸郎	"	"
61. 3.11	都市中小河川の汚濁に関する研究Ⅱ —主成分分析による水質汚濁の特性—	斎藤 勝美	"	"

### 2. 研 修

年月日	研 修 名	氏 名	研 修 場 所
60. 5.13 ～ 60. 5.31	機 器 分 析 研 修	松 田 恵 理 子	環境庁公害研修所
60.11.11 ～ 60.11.29	大 気 分 析 研 修	斎 藤 勝 美	"